

OPENING
EVENTS
IN
KOBE

神戸ポートアイランドに 未来都市を夢見る

（コスマポリス）

・ユニバーシアードめざし、ワールド記念ホール開く



10月5日、ワールド記念ホールのオープニング。勇ましい「こだま太鼓」の響きが、開館の刻(とき)を告げた。

「85年夏に催される若者の祭典、ユニバーシアード神戸大会の競技場となるワールド記念ホール（神戸ポートアイランドホール）が完成、10月5日華麗にデビューした。この記念式典には、約四千人が出席、神戸太鼓保存会の「こだま太鼓」を皮切りに、クイーン神戸、プリンセス神戸、ユニバージェンヌなど晴れやかに花のパレードを飾った。同ホールは床面積3100畳天井高30m、最大収容人員10,000人の多目的ホールで、規模や機能とも国内第一級のものだけに、いよいよ未来都市の出現を予感させるインパクト・ホールとなりそうだ。

——われわれの夢見る2001年とは、何だろう。21世紀にひらける神々しい夜明け——。その予感を感じながら、日本は、地球は、いつまでこの迷路をつづけるのか。その迷宮のトンネルをやりすごしたとき、一斉にひろがる解き放たれた世界。それをイメージするかのように、10月7日、神戸ポートアイランド、ワールド記念ホールで、地球復活祭（コスマポリス）が催され、約2万人の観客がこの日、未来都市の幻想に酔った。

ファッショングレイナー、菊地武夫と、音楽家の坂本龍一、日本の2つの才能がこの宇宙的イベントの総合プロデューサーというだけに、凝りに凝ったパフォーマンスは終始われんばかりの拍手にホール内は湧いた。

構成第1部は、現代社会そのもの、コンピューターシステムによる機械文明がもたらした末期的世界……。スピーカー・タワーから突然、吐きで



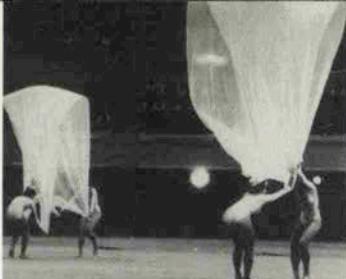
上／夜明け、誕生、そして再生、崇高な宇宙
からの「生命」の光をあびて。下／バレー
団、ポップバースによる「生命」の踊り
と歡喜。



フィナーレには、
坂本龍一、菊池武夫
両氏が登場、喝采の渦となった。



▶破壊と戦争、そして、ゴスペルチームが
コスモポリスの誕生を高らかに歌う……



上／宮崎市長が挨拶、美しい新体操も登場、
下右／鳳 蘭さんの歌声と左はふるさとの踊り



IV. コスモポリスの出発-COSMOPOLIS



る支配者のメッセージ。それは地の底から響き渡る悪魔的な声だ。ビデオと鳴り響くサイレンとモーターギヤングたちによる破壊と戦争。都市の残骸の中に人間たちの裸の存在が再生への渴望となつて轟き、やがて未来都市「コスモポリス」が出現する。ポップパーダンサーズの華麗な踊りと、ジエフリーホワイト率いるゴスペルチームの祈りと歓喜の歌声の中、菊池武夫デザインによる華麗なファッションショーがくり広げられ、フィナーレとなつた。

■クラフト・ルポ

■杉の香ただよう大和路、お箸のルーツを探る

吉野・下市を訪ねて

しも
いち



日本人の食生活にきりはなせないお箸、その起源は古く、人類が火を用い始めた頃、鉄や竹製のピンセット型だったといわれる。さて、木の割り箸は、後醍醐天皇が大和に吉野朝を開いた時、里人が朝夕の供御(食事)に名産の吉野杉を削って献上したのが始まり。以後、千利久の茶道の発展に伴って、明治には一本ずつ対になつた利休箸が全国の高級料亭で用いられるようになり、今日のように大衆食堂にまで割り箸が使われるようになつたのは、戦後、マツやカバを用いた機械製品が普及した、この30数年のことである。

現在、割り箸の需要は年間150億膳(ぜん)を越えるといわれている。世界の人口146億人のうち、ナイフとフォークを使う文化人口が約1/3、手づかみの食文化が1/3、残り1/3が箸文化人口と推定されているが、箸の文化、食生活の中に日本人の美意識がひめられているようだ。

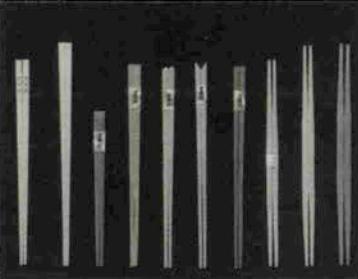
吉野といえば、桜の名所として有名だが、吉野杉の香り高い里、下市村は「割り箸の町」として、古来、全國に名高かつたが、今は、この手づくりの伝統産業を守りつづける名人も数少なくなつてしまつた。阪神高速大阪環状線から松原をぬけて、西名阪自動車道を東へ。大和郡山I.Cを出て、24号線を南へ、大和三山で知られる耳成山、天香久山を左に、敏傍山を右手に檀原市をぬけると、高松塚古墳で有名になつた明日香の里、壺阪靈験記の壺阪寺をすぎ、くすりの町、高取町をぬけて一路、下市町へ。吉野川(紀ノ川)のせせらぎ美しい晩秋の川畔に吉野物産、箸問屋ヨシイがある。吉野生まれで2代目と、いうヨシイの吉井敬二さんに、下市の案内をお願いした。

伝統工芸を守りつづける「名工」に出あう

秋空冴えわたる緑の下、材木置場のあちらこちらに、まだ水気をおびて赤く小割りにした角棒が數10本ずつたたばねられ、まるで、大輪の花がひらいたような様子でひろげられている。「あれは赤梗の杉箸を天日で干しているんです」と、



吉野杉箸の伝統工芸を守りつづける名工、東季利さん。丹精こめた箸づくりに力が入る。



お正月の鏡もちを並べる三宝(さんぼう)も、吉野の名産。これは吉野檜で作る。

▲赤粂の角箸(小割り)を天日で干す。
まるで大輪の花が咲いたようだ。

季利さんの四面取りのあと、奥さんが面取り作業を進める。



▲原材から木皮(こわ)に。▲柾びき機で木皮を下は機械による割り箸 カマボコ状にした作り。 後、小割りにする。



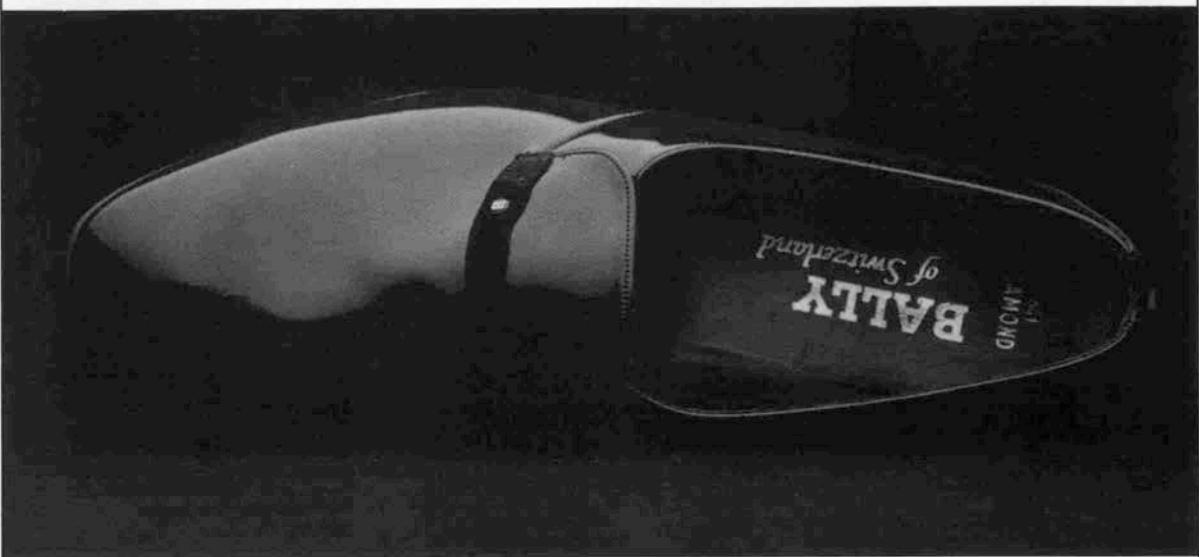
全国の名料亭へ直売。
いろいろなお箸のオーダー
承ります。

企画・制作
神戸はしまん
神戸市兵庫区松本通3丁目1-39
TEL 078-521-7781
FAX 078-531-5884

A small, rectangular box containing several thin, metallic needles or pins.

逸品集(4,000円)

吉井さん。「これからご案内します」
家屋の奥に入ると、老人夫婦がカンナくずの向うに
いた。数少なくなった箸職人の名人、東季利（ひが
しすえとし）（68歳）、キリエさん夫妻だ。ほどよく乾い
た小割の原材を扇状に並べ、カンナで四面のツラをき
れいにそろえていく。カンナと木の擦れる音とともに
紙のように薄いテーブ状のカンナ削がこぼれ落ちる。
美しい杉の極目が現われ、ブーンと杉の香が漂う。
「下市は昔から、箸づくりの町です。私たちはみんな
子ども時分から、家の手伝いと同じように、親たち
に混じつてお箸づくりを手伝つたものです。」
戦後、復員してから再び箸づくりに取りこんで50年。
しかし、箸づくりの伝統をつぎとうという若者は少
ない。名人の技でこそ生まれた吉野杉箸、その味わい
の深さを見直してみよう。



'84秋・冬新作バリー・舶来雑貨が
トア・ロード《クロス》に到着。
ぜひお立寄り下さい。

靴と舶来雑貨
クロス
世界の一流品をあつめた

神戸トア・ロード☎078(391)1781 三宮生田筋店☎078(331)5983
神戸ポートピアホテル・パレビアンカ2F ☎078(302)1558

優しさを奏でる、香りの贈りもの。



お届けします
神戸の銘品



上島珈琲本社



ブルーマウンテン&
グランドモナードコーヒー セット ￥5,000



レギュラーコーヒーセット
￥3,000



炭焼コーヒーセット
￥3,000



インスタントコーヒーセット
￥4,000



スティックコーヒーセット
￥3,000

ご贈答品に手造り手描き“清水焼”



青抹陶酒器揃 ￥3500

やきものにこめられた手づくりの温もり。それは贈る方のまごころを大切な先様へ伝えます。

一流作家の作品をはじめ、豊富な品揃えの中から心通う一品をお選び下さい。

清水焼

雲樂陶苑

神戸ポートピアホテル店

〒650 神戸市中央区港島中町6-10-1 神戸ポートピアホテル

ショッピングアーケード〈パレビアンカ1階〉

☎078-302-1557 / 078-302-1111(内線3514)

☆パンフレットをご希望の方は、
左記までご連絡下さいませ。
早急にお送り申しあげます。



贈る
金盃

KINPAI

友ありて
酒ありて

金盃セット
K2
¥5,000



純金箔入一級 純米酒二級
1.8L詰1本 1.8L詰1本
美濃焼小鉢セット
5客組

灘の清酒

金盃

金盃酒造株式会社

本社／神戸市灘区大石東町6丁目3番1号
TEL 神戸 078-871-5251 (代表)
東京支店／東京都中央区新川1丁目14番5号
TEL 東京 03-553-2601 (代表)

丹精こめた伝統の技術、熟成された風味…



灘の名産、甲南漬をご進物、ご家庭用にご利用ください



樽に生きづく伝統の風格と風味

「化粧樽詰合せ」

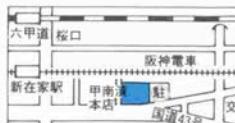
・上品な風味、親しみ深い詰合せ

「化粧函詰合せ・松茸入甲南漬」

・味、形ともに趣き豊かな極上品

「千成甲南漬」(小粒なすの奈良漬)

その他、「珍味・海の幸」など味とともに永年の
伝統を誇る高級奈良漬の風味をご賞味ください。



本店には「甲南漬資料館」を併設しています (入場料無料)

創業明治3年

甲南漬・味醂白菱本舗

高鳴酒類食品株式會社

本社 神戸市東灘区御影塚町3丁目9番 電話 代表 (078) 841-0551番
本店 神戸市東灘区御影塚町4丁目4番8号 電話 代表 (078) 841-1821番

秋の第一楽章。

奏でるよう、季節は深まります。
秋の新しいデザインを多彩にとりそろえました。



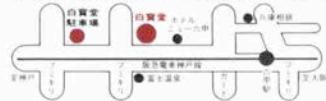
ハーモニーです、アクセサリー

■ダイアモンド ■天然宝石 ■貴金属
米国宝石学協会 鑑定鑑別士(GIA G.G.)太野治代

白寶堂

〒657 神戸市灘区篠原中町1丁目2番4号

078-881-6000 阪急六甲駅西300m/駐車場完備



動物園飼育日記 ←228→ 龍井一成 〈王子動物園学芸員〉

キンカジュウ雲隠れ事件



さる日、オオコウモリ、スローロリス、アルマジロ、キンカジュウ、モモンガ、ヨザル、ガラゴと、夜に活動する動物達を飼育している夜行性動物舎で、キンカジュウのオス、通称プリンがオリから逃げだし、行方不明になつた。

すぐ隣りではワニや我々大人の太もも位もあるアミメニシキヘビ（長さ四メートル）やインドニシキヘビなどを飼育しているのである。騒ぎというものは同僚の公休日という忙しい時に限ってほんとに起るものだから「氣を抜いたらあかん！」のだ。

〔三角関係で別居中のキンカジュウ逃げる〕

「プリン」とことキンカジュウのオス。（アライグマの仲間。中南米産）実は、ライバルのオス、「ゴン太」に、メス二頭共独りじめされ、見るも無残な程、咬みつかれひと時入院治療を受けたが、もはやゴン太やメス達と同じ



人気上昇中のレッサーパンダ。右頁は筆者に抱かれてゴキゲンのキンカジュウ・プリン

居すること不可能となつた。そこで、プリン一頭だけを小さな箱オリの中で飼っている。いや、その小さな箱オリの中のプリンがいなくなつたのである。

できれば、一族の中に戻してやりたいので夜行性動物を世話する台所の隅にプリンの箱オリが置いてある。弱い子には余計においしい物を食べさせ、やさしくしてやるものだから、そのプリンは、抱けるまでに馴れ、畜産科の実習生たちも抱いてはよく記念撮影を楽しんでいた。

「オーケイ、プリン。どこへ行ったんや！」

いくら呼んでも応答がない。どうせ夜が明けたら、バナなど熱帯植物の茂る根っ子に丸くなつて眠つているに違いない。「プリン、餌おいとくから帰るぞ」動物舎の出入口シャッターを閉めれば、もう屋外に出ることは絶対ないので、自ら戻ってくれることを期待してその日は帰宅することにした。

第二日目、やはりプリンは呼べども答えず、全く姿を見せなくなつてしまつた。第三日目、それでも飲まず食わずに生きられないのに、姿を見せない。どこかに足跡やフンが落ちてないだろうか。私は今日も探し回つた。何せ太陽熱利用の動物舎だから地下も天井も複雑なパイプラインでぎつしり、我々人間さまは入りこめない。

「こらあかん。プリンから出てきてもらうしかないと、好物のブドウやバナナ、ソーセージをどっさり餌箱においても全く手をつけていないのだ。その上、少々気になることがあつた。

「あのアミメニシキヘビの腹がえらい大きい！」

「まさか、あのニシキヘビが……」

折りしも最も食欲旺盛な九月初旬のこと、動く物に対しては、掃除にも入れない程、とびついてくる彼等の季節だ。もし、そうであれば、何と上司に報告すればいいだろうか。

今だから明かそう。「ほんとに心配しました」

だが、仔細に見て回るうち、カメのいる附近の柱や鉄の扉に小さな足跡を私は見つけた。

「やはりどこかにいる」

続いて探すうち、「あった、あった。ありました！」電話機のある机の端っ子に小さなウンコがコロリと落ちていたのだ。

「やさしく誘つてだめなら威してやれ！」

そのウンコを見れば、プリンは、私の置いたものには口をつけずに、あちこちで拾い喰いしていることがわかつたから、私も負けてはおれない。

よし、それならプリンの怖がることを仕掛けてやれ！

と、思いついたのが、見かけないものを、プリンが潜ん

でいるはずの台所においてやることや。

ちょうど運よく大声で鳴くヤギを飼育中の私は、その

子ヤギの「夏ちゃん」を朝早くプリンがいそうな所へ連れていったらどうだろ。

「キュツ、キュツ、キュツ、キュツ！」と声を出しながら、暗闇の天井からスルスルと降りてきて私の足元にしがみついてきたのである。

「プリン、よかつた、よかつた。よう出てきてくれた」私は誰もいないニシキヘビ舎の前でひとしおプリンが無事だったことに胸をなで降ろしていた。

「エッ、あのレッサー・パンダが逃げた」

お粗末なことばかりが続いてお叱りをうけるかもしれないが、今こうして記すことは事故がほんの僅かなことが原因となっていることを改めて、思い浮かべ今后の事故防止に役立たせたいからである。

レッサー・パンダもまた、担当者のいない時の正午頃のことであった。

「パンダが逃げて木に登っている」という報らせを入口事務所から受けたのだ。

「あっ、はい。そうですか！」と返事をしているその班の飼育員、受話機をおいてから、「何時もあの柳の木に登つて遊んでいるのだが……」と、確認に走った。三分後「やつぱり外の木に登っているようだ」と連絡してきた。行つて見ればレッサー・パンダの周辺は人だかりでいっぱい。実は運動場に植えてある竹や柳の木が大きくなつてパンダ舎の屋根にまで枝がのびていたのだ。そこを、ひよいと飛び降り、屋根伝いに外に出て、次に桜の大木によじ登つて楽しんでいたのである。

放つておけば自ら降りてきたはずだが、大騒ぎになつたお客様の人だからにとうとう夕方まで降りてはくれなかつた。もちろん無事に戻つたが、

キンカジューは、上下のカギの内、上はかかっていても下がミスされていたことからプリンは全身で押し、こじあけて逃げだしていた。また、パンダはのびた柳の木の枝の剪定の遅れが原因だったのである。



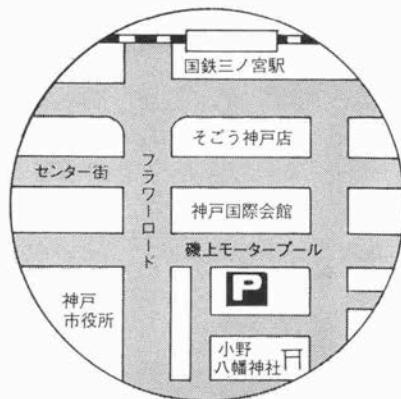
逃げ出したレッサー・パンダは、濡ました顔で木に登っていた

ビジネスに!
ショッピングに!
ご利用ください



磯上モータープール

(神戸国際会館前) TEL (078) 251-7873 (8:00AM~11:00PM)



- 収容台数 350台
- 月 極 駐 車 可
- 年 中 無 休

THE ARIMA SPA
IN NOV.

湯の町

有馬歳時記

★昔、茶会 今、コンベンション

秀吉がことのほか有馬温泉を愛したことは、現在入手できる幾多の資料によつても明らかである。たとえば、文禄三年（一五九四年）の『言經卿記』の記述。

（四月二十九日、太閤秀吉、有馬二湯治セントシ、先づ側室京極氏ヲ入湯セシメ、是日、秀吉湯山二入ル、前田利家・蒲生氏郷等扈從ス）

さらに『家忠日記』にも、「四月廿九日、秀吉有馬ノ温泉三入湯ス、（中略）事には、「卯月廿九日御湯治に付て、れきくの御伽衆十九人被召列、御慰のか

ずく云はんかたもなし、御逗留中、方々より捧物其数をしらず、有馬中へ鳥目二百貫、湯女共に五十貫被下、谷中のにぎはひいと目出見えて、五月十二日御上りなされり」と、この二十七日間にわたり逗留が重臣を引きつれてのものであったことが伺える。

この年の十二月八日にも秀吉は有馬温泉を訪れている。

「十二月八日、太閤秀吉、有馬二湯治シ、是日、地下人ノ進物ヲ自肅セシム、ツイデ、新殿造営ノタメ壞チタル在家六十五軒ノ、地子・年貢ヲ免ズ」

「ゆの山ニ御てんたち申候、御屋しきニなり申候いゑ六拾五間のもの共ニ、御年貢米百石くたされ候割張、文禄三年十二月」



400年前、有馬にコンベンションを誘致した太閤秀吉

月十日」（余田文書）

「ゆの山ニ御てんたち申候、御屋しきになり申候いゑ六拾五間（軒）こわし申候、御地子のしろかね御免分、文禄三年十二月十日」（余田文書）

秀吉の有馬温泉入湯は、このように、あたかも居城が有馬におかれかの趣きがあり、「凝似遷都」と言えそうだ。

神戸市は現在、コンベンション都市（会議見本市都市）づくりを目指して胎動しているが、すでに四百年前、秀吉は

有馬でコンベンションを開催していたと

静寂さにつつまれた
くつろぎの宿

国際観光旅館

陵楓閣

TEL (078) 904-0675
TELEX 5627-115

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり
味に集う



TEL (078) 903-1024

木造りの宿

TEL (078) 904-0551

自然の恵みを
湯けむりに伝える

政府登録国際観光旅館

古泉閣

TEL (078) 904-0731

有馬の歴史を語り続ける「いで湯の宿」

銀水荘

別館 楽山

TEL (078) 904-0622

光楽

TEL (078) 904-3656

いえよう。秀吉はまた、有馬温泉で茶会を催したことでも知られている。

『宗及茶湯日記』によると、天正十三年（一五八五年）の一月十七日、秀吉は有馬へ湯治に行き、石川伯耆、宗易、宗及らとともに茶会を開いている。

天正十八年（一五八九年）十月四日には、千利休、小早川隆景、有馬法印らを招いて善福寺で開いた。

「太閤を偲ぶ有馬大茶会」が始ったのは昭和二十九年のこと。毎年、紅葉の美しい十一月二・三両日に開かれている。

本来コンベンション都市とは内外から大小幾多のコンベンションを誘致し、會議や見本市を開催することによって、都市の活性化を促し、利潤を追求するものであるが、現在の有馬温泉は、有数のコンベンション基地だと言えよう。

「有馬大茶会」は、兩日で延べ二千人の茶道愛好家で賑わう。無論、これ自体が一つのコンベンションである。

有馬温泉には規模の大小はあるが、約三十軒の旅館・ホテルがある。それぞれに客室の他、各種の宴会施設をもつている。

これらをうまく連携させることができれば、都市近郊でありながら自然の豊かさを伴せもつ、またとないコンベンション基地として稼動できると思われる。

今年の十一月二・三両日、有馬温泉では大茶会が開かれる。それは美しい自然の中の華やいだ点景であるが、かつて太閤秀吉が有馬の地に賑わいをもたらしたように、二十一世紀を目指すコンベンション都市神戸の一翼を担う有馬は、今、新たな脚光を浴びているのだ。

<有馬温泉大学からのお知らせ>

当有馬温泉大学も創立以来すでに5年の歳月を経、本年11月25日（日）5回目の開講となりました。

思いおこせば、温泉の魅力をとりわけ若い方々に知っていたいだこうとの主旨で始まりました当大学も、これまで芸道篇（男性対象）シェイプアップ篇（女性対象）などいろいろと趣向を凝らしてまいりました。有馬温泉のもつ魅力のすべてをカリキュラムに取り入れ、ずい分と好評をいただきました。

さて、本年は、受講生の皆さま方と一緒に私どもも勉強をしようと真面目に（？）考えています。女子大生の間で温泉への関心が高まっているとの新聞記事を目にしたこともあり、どうすれば若い層をさらに有馬温泉へ引きつけられるかをいろいろと学びたいと思っております。

受講生の募集中については、有馬温泉観光協会青年部までご連絡下さい。

有馬温泉大学学長 風早 和喜

<ご連絡は 904-0501 兵衛向陽閣まで>

欽山は典雅な
日本風の館です

国際観光旅館



TEL (078) 904-0701(代)

敷地内から湧きでる
日本最古の温泉“有馬温泉”

阪急ホテルチェーン

有馬ビューホテル

TEL (078) 904-2295(代)

温泉と演芸と遊技場

有馬ヘルスセンター

TEL (078) 904-2291

雅ただようくつろぎの館

中の丸瑞苑

TEL (078) 904-0781

会議セミナーから御家族づれまで

有馬グランドホテル

TEL (078) 904-0181

結婚式場を完備しています

兵衛向陽閣

伝統と格式を誇る

兵衛向陽閣

景勝高台の近代旅館

TEL (078) 904-0501(代)

里親家庭における親と子の追跡調査報告 「成人里子の生活と意識」

橋本 明（社團法人「家庭養護促進協会」事務局長）

毎週一回神戸新聞の「あなたの愛の手を」のコーナーと、ラジオ関西の「里親さがしの時間」の番組で、兵庫県下を対象に家庭を失った子どもたちに里親を求める「愛の手運動」を続けて22年になる。今日までにこの活動を通して里親に引きとられた子どもたちの数は約七五〇人にものぼっている。長い歳月を経ると小さかった子どもたちも成長し、また子どもたちを育てた里親もそれだけ年を重ねている。協会では20周年を迎えた一昨年から、この活動を通して引きとられた子どもたちが、その後どんな生活をし、社会人としてどういうような人生を歩んでいるのかをぜひとも知りたいと考え、子どもたちと里親のその後の追跡調査を試みる準備を始めていた。

調査対象者は、協会の神戸事務所を通して兵庫県下の里親家庭に引きとられ、里親と三年以上暮らした経験のある18歳以上のかつての里子（成人里子）たちとその里親である。

二十年間の資料の中から対象者の抽出をし、基礎データの整理、アンケートの作製、依頼状の発送、調査員の研修などの準備を経て、調査に入ったのは今年の一月からであった。調査は面接方式とし、対象者を一人一人訪ねて回り、調査員がアンケートに回答を記入することにして、対象者や回答者の内訳は別表の通りであるが、成人したかつての里子たちの居住地は兵庫県下の各地域のみならず、北海道、九州、四国、中部、関東地方にもお

よんでいるため、彼らの足跡をたどり、訪ねて回るのは大変なことであった。

五月に調査が終わり、コンピューターで集計結果を分析し、調査検討委員会で内容の検討、報告書の草稿、そして「成人里子の生活と意識——里親家庭における親と子の追跡調査報告」が刷りあがつたのが10月。ちょうど里親月間であった。

さて、調査結果の詳細は報告書にゆずるとして、いくつかの主な柱をのべておきたい。

まず、子どもたちが里子時代に過ごした里親の家庭は経済的にも安定し、夫婦仲もよく、夫婦仲もよく、家族の連帯感・一体感がもてるような家庭であり、里子たちはそのような家庭のなかで明かるく、のびのびと育てられた姿が浮かんできた。成人した里子たちの現在の社会人としての生活も、収入や友人関係にも恵まれ、安定した暮らしへ送っている。

<調査対象者および回収数>

	対象者数	回収数	回収率(%)
里子	123	67	54.5
里父	107	64	59.8
里母	121	94	77.7
計	351	225	64.1

その背景には里子たちを懸命に育て、今まで支えつづけてきた里親たちのたゆまぬ努力と愛情がアンケートの結果から伝わってくる。ここにみられる里親子の姿は一般家庭の親子と何ら変わることなく、成人里子の姿も一般的の青年と変わってはいない。血つながらない里親と里子という関係は一般的の目からみれば特別な親子であり、特殊な家庭というように受けとめられるかもしれないが、この調査からはそんな親子、家庭像は浮かんでこない。ごく普通の親子として生活を営んでいくことが里親制度の目的でもあるのだからこれは当然のことであろう。

もう一つ、この調査では施設出身者との比較を少し試みてみたが、資料が少なく、限られた資料のなかでの比



報告書作製のための打合せ。芝野松次郎氏（左から3人目）と協会職員

較なので十分な考察はできなかつた。

いくつか気がついたことをまとめてみると、成人里子の方が施設出身者よりも学歴は高く、安定した大きな規模の職場で働いており、収入も多く、比較的仕事にも満足感をもっているようであった。ここにも両者の間に、育つた環境の違いが大きく影響しているように感じられる。

また、同じように血縁のない「育ての親」に育てられて、その親の戸籍に入籍して養子として育てられた子どもと、入籍せずに里子として育てられた子どもを比べてみると、養子の方が里子よりも、家族の一員としての一体感、所属感はより強いようである。

この成人里子の調査は、日本ではほとんど他に例がなく、海外でも数少ない調査であるだけに、今後さらにまた別の視点からも分析、検討を重ねていきたいと考えている。

この貴重な調査を実施するために「社会福祉法人・丸紅基金」から助成を受け、報告書の出版には「財団法人こうべ市民福祉振興協会」から助成をいただくことができた。また準備から報告書の完成まで、関西学院大学社会学部専任講師の芝野松次郎氏からご指導、ご助言をいただいた。そして多くの里親やかつての里子であつた人たちの惜しみない協力のおかげでこの調査を実施することができた。

あわせて心からお礼を申し上げたい。

★おしらせ

今年度の神戸市芸術祭の協賛行事として
「ドキュメンタリー親子むすびの上映と懇談会」
左記のように開きます。

日時　十一月二十九日（木）午後二時～五時

場所　シアター・ボシェット

参加費　五〇〇円

参加ご希望の方は左記へお申し込み下さい。

電話　（〇七八八）三四一一五〇四六
社団法人　家庭養護促進協会

ビッグインタビュー 大阪大学総長

山村雄一

海外作家
インタビュー

ザオ・ウーキー



今昔絵双紙〈7〉

田辺聖子

特別寄稿……岡部伊都子
小説太陽の発見者〈5〉：阿部牧郎

日本の宝との出会い●唐招提寺金堂

空から見た造形美「彦根城」
美女登場「宮本東代子」カラーページ：可愛い子犬たち

企画特別
神戸トータルファッショントエア

企画

大阪の曲り角●木津川 計
評伝・川端康成③●石濱恒夫

上方味覚紀行●楠本憲吉
創造の世界●立石電機中央研究所



オール関西

好評発売中 ¥580 (年間購読
¥8,000)

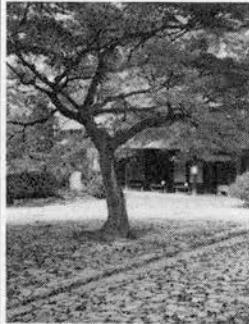
11月号

新しい関西を創造する総合雑誌

関西二ユーメディア・エージ・タウンジャーナル／西日本ホットライン／カ
ルチャーカレンダー／今月の健康／名医に聞く／パーティ&シンボジウム／
マンガ・小島功の好色一代男／BOOKレビュー／オラクル／エロチカ力辞評
／ヤングのページ／続・沙羅利満氏の経済教室／建元正弘

カラー特集 錦繡の京

写真家／山本健三



■オール関西株式会社/〒553 大阪市福島区福島3丁目1-59イカリビル3階 06-453-4301

元町まちづくりを考える
元町キャンペーン座談会
(12)

さあこれからだ！ 元町まちづくり

元町で文化の香りある町づくりを積極的に進めておられる「元町の文化と伝統を守る会」が結成され、早や9カ月になります。今日は、同会の事務局長の島田さんをはじめ、幹事のみなさんにお集りいただき、これまでの活動の推移を振り返っていただくとともに、元町の今後の展望について話し合っていただきたいと思います。

★元町の新しいシンボルとなるモニュメントを

島田 すでにみなさんもご存知でしょうが、阪神電車元町駅西口に建設が予定されている日本中央競馬会の場外馬券売場反対運動が市

民レベルの運動へ広がり、元町の伝統と文化をもう一度見直そうとということで「元町の文化と伝統を守る会」が発足したわけですね。

横山 そうそう。神戸の中で、元町ほど老舗の並んでいる商店街は他にはない。なんといっても、100余年の伝統がある。これを大切にしないといけない。文字通りに元町の文化と伝統を守らないといけないという危機感がありましたね。

高橋 元町の文化と伝統を守るということはつまり、元町全体の活性化ということで、そのためにはまず人を集めることです。そのためのイベントとして、四月二十九日から五月七日まで、元町ルネサンス元年として「元町愛のフェス

ティバル」をやりました。山根 あのイベントは、大成功でしたね。しかし、そろそろ次のイベントを企画しないといけない。単発で終わってしまったのではありません。

渡辺「元町愛のフェスティバル」のオープニング行事として「カリヨンの鐘」の完成式が行われましたが、「カリヨンの鐘」も元町のシンボルとして、市民や観光客の間に認識され始めていますね。

横山 もう一つぐらい元町の象徴となるモニュメントがほしいですけどね。

高橋 南京街の西入口にも楼門をつくればぜったいに名所になるんですけどね。



山根 良一 竹山 清明 島田 誠
<弁護士> <生活空間研究所所長> <海文堂オーナー>



横山 憲一 高橋 憲二 渡辺 政雄
<中学教師> <タカハシ菓店オーナー> <SPプロデューサー>

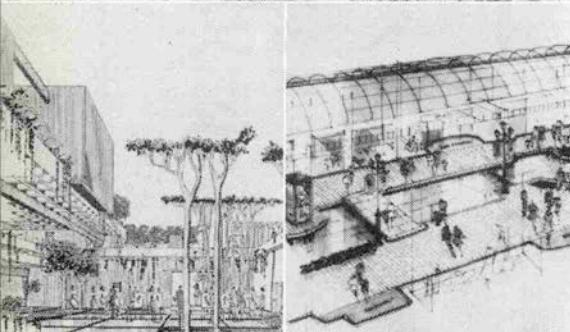
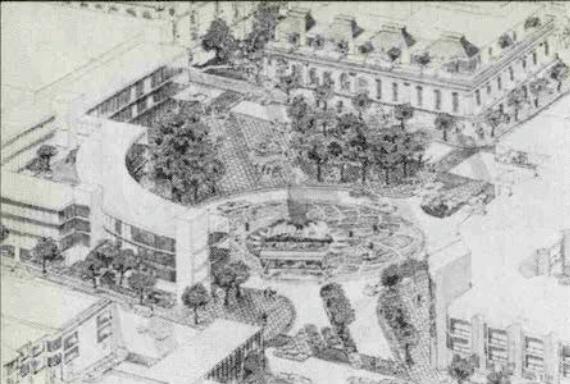
竹山 「元町の文化と伝統を守る

会」主催で元町のまちづくりアイデアコンペを行い新鮮なアイデアを提案した入選作が八点決つたのですが、今ここで元町アイデアコンペ入選作をもう一度検討し直してみる必要がありますよ。あのなかには元町に文化の核となる劇場をつくる、県庁から港への流れをつくるなどいろいろなユニークなアイデアが提案されています。

★市民もぜひ参加してほしい

元町まちづくり

山根 ただ「元町の文化と伝統を守る会」がいくらアイデアを提案してもそれを受けた商店街の組織がしっかりとしないと何にも実現しません。そこで、八月七日に「元町まちづくり委員会」がスタートしたんですよ。



元町アイデアコンペ入選作より（写真／上）元町周辺の歴史的建造物の保護、メモリアルゾーンの提案（同／下右）新しい「通り」づくりの提案（同／下左）元町に大小のイベント施設を

島田 会員28名で月2回会合をもつて、まちづくりの諸問題を討議したり、外から講師を招いての勉強会を開いたりします。現在、「元町まちづくり委員会」は3つのセクションに分かれて活動しています。まず、元町の実態調査をするグループは、元町にどういう店があつて、人はどう流れているかなどを調べます。第二のグループは、元町への交通について考えます。

元町へ来る人の阪神電車、国鉄、バス、マイカーの利用状況をアンケート調査したり、新交通の提案もします。最後のグループは、北野町、南京街、メリケンパークをつなぐルート開発を実行し「面」として発展させることを考えます。

竹山 それとね。「元町まちづくり委員会」は元町内部への呼びかけ

島田 その運動の第一段階として、十一月四日に風月堂ホールで市民大会を予定しています。内容はまだ検討中ですが。まちづくり委員会の活動を市民の方に理解していただきため、都市計画家をはじめてのシンポジウムを予定しています。その他にも、当日、元町へ来ていただいた人にも楽しんでいただけるようなイベントも考えていました。

渡辺 でもやっぱり「元町まちづくり委員会」だけが町づくりに取り組まんとなんにもできません。

高橋 そのとおりです。元町全体のバックアップがあってこそ、まちづくり委員会が機能するんです。

竹山 「元町まちづくり委員会」が結成されたのを機会に、元町の方々はもちろんですが、市民の方にも「元町」をもう一度見直していただき、我らの元町、神戸の元町と誇れる活気と魅力のある町に市民の方々と協力して変えていきたいと思います。

だけでなく、外へのアピール。神戸市民全体へのPRもやっていきます。元町は新しいまちづくりと真剣に取り組んでいます。だから市民の皆さんにも力を貸してほしいとよびかけていくんですよ。